

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-026	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Modest alcohol consumption and carotid plaques or carotid artery stenosis in men with non-alcoholic fatty liver disease. 非アルコール性脂肪肝(NAFLD)男性における中程度アルコール摂取と頸動脈プラークあるいは頸動脈狭窄		
執筆者		
Sinn DH, Gwak GY, Cho J, Son HJ, Paik YH, Choi MS, Lee JH, Koh KC, Paik SW, Yoo BC.		
掲載誌		
Atherosclerosis. 2014 Jun;234(2):270-5. doi: 10.1016/j.atherosclerosis.2014.03.001.		
キーワード		PMID
非アルコール性脂肪肝、アルコール摂取、頸動脈プラーク、頸動脈狭窄		24704629
要 旨		
<p>目的： 中程度のアルコール摂取と冠動脈疾患との有益な関係について一般住民を対象とした研究により報告されている。しかし脂肪肝の男性において有益かどうかは知られていない。</p> <p>方法： 腹部および頸動脈の超音波検査を受けた 30 歳以上の男性 10,581 名を対象とした横断研究を行った。非アルコール性脂肪肝(NAFLD)は超音波検査によって診断し、慢性肝疾患による脂肪蓄積やその他の二次的な症例は除外した。中等度のアルコール使用は、20g/day 未満とした。</p> <p>結果： 2,280 名が脂肪肝と診断され、平均年齢 51.8 歳であった。そのうち、1,797 名は中等度のアルコール摂取者であった。頸動脈プラーク(55.3% vs 43.3%, $p < 0.001$)、頸動脈狭窄(11.0% vs 5.5%, $p < 0.001$)の割合は中等度アルコール摂取者よりも非摂取者で高かった。中等度アルコール摂取は、年齢、喫煙およびメタボリックシンドロームで調整後も頸動脈プラーク(オッズ比: 0.74, 95%CI: 0.60-0.92)および頸動脈狭窄(オッズ比: 0.62, 95%CI: 0.43-0.90)と独立した負の関連を認めた。</p> <p>結論： NAFLD を有する男性において、中等度アルコール摂取は頸動脈プラークおよび頸動脈狭窄と有益な関係がみられた。</p>		